

平成 28 年度岡山 ESD 推進協議会
岡山 ESD プロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 国際理解およびグローバル人材育成の支援

団体名 NPO 法人 こくさいこどもフォーラム岡山 担当者名 難波 徳行

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

下記 4 事業を実施した。★詳細は、添付資料を参照願います。

1. 国際塾（高校生対象） 7 月～11 月、全 11 回の講義を実施。受講者 34 名。
2. 懸賞論文（高校生対象） 応募期間 5 月 16 日～9 月 9 日、 多数の応募あり。
11 月 23 日（日）清心女子大学ヨゼフホールにて、最優秀賞他 8 名を表彰。
3. 高校生グローバルゼミ（高校生対象）
10 月 23 日（日）、岡山国際交流センターにて、開催。
参加：高校生 37 名、教育関係者 31 名。ファシリテーター 中島理恵氏。
テーマ「日産 カルロス・ゴーン氏のリーダーシップについて」
4. ESD Café URA 2016（高校生・中学生対象）
12 月 23 日（金）、岡山国際交流センターにて、開催。
参加：高校生・中学生 76 名（14 校）、教員・来賓 9 名、関係者 12 名。

2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

1. 国際塾：国際理解の観点から「古代よりの吉備文化の先進性」（第 4 回）、「海外駐在員の失敗経験から学ぶ海外文化」（第 5 回）、「世界の宗教と世界平和」（第 6 回）「倉敷から発信された文化」（第 7 回）、「留学生から見た日本文化」（第 8 回）、「EU の歴史と課題」（第 10 回）を取り上げた。
2. 懸賞論文：ESD の視点をより明確にすべく、テーマを「グローバル社会と私」「ESD と私」「岡山からの私の発信」の 3 つに限定した。
3. 高校生グローバルゼミ：テーマに「カルロス・ゴーン」を選定、グローバル人材の実例を示した。また、運営面では、「ハーバードメソッド」を採用した。
4. ESD Café URA：従来、普通科高校以外では農業高校 1 校の参加にとどまっていたが、今回は、商業高校 2 校の参加を得て、発表の視点がより多様化できた。

告会をする運びとなりましたが、参加者から「学生がこのような社会問題について考え行動しようとしていることに感銘を受け、自分も何かしなければと思った」というような感想を多くいただいた。また岡山フェアトレード日の活動では商店街の通行人へのアンケート調査で半数以上が「フェアトレード」活動について知らないと答え、そのような地域住民に対しフェアトレードについて知っていただくことができ、また以前この活動によりフェアトレードについて知り、買い物の際などフェアトレード商品があれば選ぶようにしていると話してくださる参加者もいました。

4. 今後の課題と展望

2017年3月でILOHAとして「医療の限界と可能性」というテーマの活動は終了になり、来年度は新たに別のテーマを掲げ活動していきます。特に今年度の勉強会により学んだ広い視点で物事を見ることの重要性は来年度以降の活動につなげていきたいと考えています。また4月末には今年度の活動の振り返りとして地域住民に向けての年次報告会を行い、年次報告書の配布を行う予定です。

課題としましては、今年度の活動は大変学びが多く将来につながる内容も多い内容となりましたが、それだけにもっと市民や学生に広報や企画など行い活動を周知してもらわねべきであったと感じました。これを踏まえ、来年度はより外に開かれた企画を取り入れ、部内だけでなく多くの人と共に学んでいけるような活動を展開していきたいと思います。また南海トラフ地震に向けて、AMDAと連携した勉強会やイベントなどの開催を考えていたが本年度は始動することができなかったため、来年度以降に部員やAMDA職員並びに、地域住民などにも学びのある企画を考えていきたいと考えています。

2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

今年度は以下の 3 点で ESD の視点を取り入れました。

1 点目は今年度の勉強会にて「医療の限界と可能性」というテーマを設け、医療の様々な分野での最先端の取り組みや、それを踏まえた今後の可能性について学んだ点です。高齢化による介護や緩和ケアの需要増、原発問題、AI の台頭など社会情勢は日々変化しており、医療という分野もこれらの社会情勢の変化による課題を克服できるよう、新しい可能性を模索していかなければなりません。これから医療従事者として働き可能性を模索していく者として、そのために現在の課題や行われている対策など現状について学び、課題解決の可能性を考える基盤を築きました。

2 点目は医療という視点にとらわれず広い視野を持ち、現代社会の様々な課題について学習したという点です。私たちは医療関係者であり、特に「健康」について考える際には医療という分野のみからものを考えがちですが、8 月に行った夏プロジェクトにて個人の健康に影響しているものは医療的なものだけではなく、経済、教育、宗教など様々な原因が潜んでいるということを知りました。そこで後期の勉強会では医療の視点から勉強していた態勢を見直し物事分野を“自然科学”“経営科学”“政策科学”“人文科学”という 4 つのくりに分け、個人に関わる問題をこれらの様々な視点から考える事で、分野にとらわれない考えを持つ練習をし、将来何か課題に面した際に様々な可能性を考えられる力を育みました。

3 点目に、夏プロジェクトで学んだことやフェアトレード活動、性暴力についての啓発映画などを地域団体とともに岡山の地域住民や学生に対し発信した点です。報告会や講演会により普段の生活ではあまり関わりのないような社会問題について「地域で学ぶ学生」、または「同級生」という立場の部員が発信することで、これらの問題を少しでも多くの人に親身に捉え、考えてもらう機会を設けました。また AMDA 社会開発機構や UNICEF などの団体と協働することで活動の幅を広げ、大学卒業後も活かし活動ができる繋がりを作ることができました。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

前半の勉強会により、まず医療従事者となる上で知っておくべき医療と関わる様々な課題の現状を知ることができました。介護者の中で自殺を考えたことのある人の割合や虐待に気付くために気を付けることや対応方法、また現在医療現場に取り入れられている出生前診断や AI といった先端技術についてなど、現代社会の抱える課題であるにも関わらず大学の勉強では学べない多くの知識を学び、将来課題解決の際に役に立つであろう知識の基盤を築くことができました。

また後期の勉強会の様式により、部員のほとんどが今まで「医療」という視点でばかり物事を考えていましたが「政策」や「哲学」など全く新しい広い視野を持つことができ、その上で個人の健康問題を解決するワークショップを行ったところ今まで見えなかった様々な解決策や可能性を考えることができるようになりました。

また夏プロジェクト報告会は夏プロジェクトに参加した部員が現地で様々な問題を目の当たりにし、実感したことを「他の人にも伝えたい」と強く思い地域住民や学生に向け報



毎週木曜日の勉強会の様子



カンボジア夏プロジェクト (2016/08/20~24)
薬草園のある地域の小学校訪問の様子



夏プロジェクト報告会 (2016/10/16)